

現代でも、その技術は脈々と受け継がれています

### 高い技術で業界をリードする職人達 静岡市伝統工芸技術秀士

静岡市では市内の伝統工芸の技術保存と後継者育成のため、長年伝統産業に従事し優れた技術を保有し、その伝承と発展に寄与した功績が顕著な職人を「静岡市伝統工芸技術秀士」として指定しています。これまでに51名の方が指定を受けています。

染物師  
おおはしとしゆき  
大橋俊之さん



### 新しい時代を担う若手後継者 クラフトマンサポート事業

伝統工芸業界の後継者が不足する中で、静岡市では、「クラフトマンサポート事業」で技術習得に励む方、若手職人を支援しています。支援を受け、自身の工房を構え独立を果たした職人もいます。

竹細工師  
たなかとしふみ  
田中寿史さん



### 静岡市の伝統工芸を体験

「駿府匠宿」は、静岡市の「歴史と未来を結ぶ場所」をコンセプトにした国内最大級の伝統工芸体験施設です。陶芸・駿河竹千筋細工・染めもの・木工・漆など、かけがえのない「ものづくり」の体験ができます。伝統工芸品をインテリアに使用したカフェも人気です。ご家族やご友人と、是非ご利用ください。



〒421-0103  
静岡県静岡市駿河区丸子3240-1  
電話：054-256-1521  
時間：午前10時～午後7時  
お休み：月曜日、  
12月30日から翌年1月1日

<https://takumishuku.jp>



### 静岡市の伝統工芸品を買う

「駿府楽市」は、駿府の人々の暮らしとともに受け継がれ、守り、育てられてきた伝統の品を一堂に集めた展示と販売の施設です。販売コーナーでは駿府の工芸品、民芸品をはじめ静岡ならではの茶、海産物等の美味特産品も多数取り揃えておりますのでお気軽にお越しください。

### 駿府楽市

〒420-0851  
静岡県静岡市葵区黒金町47  
JR静岡駅ASTY静岡西館内  
電話：054-251-1147  
時間：午前9時～午後9時  
お休み：1月1日

<http://www.sunpurakuichi.co.jp>



※上記施設の営業時間につきまして時期により変更が生じる場合がございますので直接各施設にお尋ねください。

【問合せ先】静岡市産業振興課  
静岡県静岡市駿河区曲金三丁目1-10 TEL 054-281-2100 FAX 054-284-3987



## 静岡市の伝統工芸



### 静岡市には四百年余に及ぶ 伝統工芸の歴史があります

静岡が駿府と言われていた今川時代(約470年前)には、お椀などの漆器が作られていた事がわかっていますが、産業としての基礎ができたのは江戸時代(約370年前)になってからといわれています。徳川家による駿府城や久能山東照宮、浅間神社等の造営に際し、全国から宮大工、彫刻師、塗師、金具師などの優れた職人が集められました。特に文化元年(1804～)の浅間神社の第二期造営工事では60余年の歳月が費やされたことで、二世以上にあたる工期となった事と気候の良さも手伝って、職人達は駿府に住み着き技術を教えたため、伝統工芸は盛んになったと言われてます。鏡台、針箱、お椀、重箱、竹細工などは全て漆塗だったため輸出漆器として江戸末期には大量に輸出されていました。このように静岡市の伝統工芸は漆器から始まり、蒔絵や塗下駄、挽物などの産業が次々とおこりました。その他にも和染め、雛具・雛人形など多数の工芸品が産業として成長し、分業化によって大量の生産が可能となりました。静岡市の伝統工芸は「美術工芸」ではなく「産業工芸」の歴史がほとんどだったのです。

現在、市内の伝統工芸品には、経済産業省が指定する「伝統的工芸品」は駿河竹千筋細工など3品目、静岡県が指定する「郷土工芸品」は10品目があります。



## 駿河指物

江戸期から指物師は差金(さしがね)を用いて、針箱(はりばこ)、硯(すずり)箱、文箱(ふばこ)などを作っていました。明治になって輸出を中心に内外に向け大量の漆器が生産され、その木地である指物も量産され産地となりました。その後、指物技術は家具や小木製品などへと発展し、木工産地の源となっていきます。現在でも、文箱、盛器(もりき)などの小物から指物家具まで、指物は製造されています。



## 駿河塗下駄

塗下駄は明治になり、市内の漆職人だった本間久次郎(きゅうじろう)が考案したものです。輸出漆器から転職した多数の職人により全国一の生産を誇りました。やがて高級塗下駄といえは静岡といわれる程になり、現在でもユニークで斬新なデザインの漆塗の下駄が職人の手により生産されています。



## 駿河和染

市内に紺屋町などの名が残るように静岡市は古くから染物が盛んに作られてきました。明治期に入り、やや停滞気味となりますが大正後期の芹沢銈介の登場により、和染の産地として再び活気が戻ります。型染による藍染を中心として、現在でも、のれん・テーブルセンター・風呂敷・タペストリーなど多くの製品が生産されています。



## 駿河張下駄

明治期に下駄の表面に桐の薄い板を張ったものが作られたのが始まりだと言われています。戦後からは和紙や紙布(しふ)、突板(つきいた)などを貼るようになりました。多様なデザインやソフトな履き心地が特徴です。



経済産業大臣指定 伝統的工芸品

## 駿河雛具・雛人形

雛具は明治頃から生産されていましたが本格的に製造され始めたのは関東大震災がきっかけです。一方、雛人形の本格的製造は昭和に入ってからです。雛具は蒔絵、漆器、木工、挽物等静岡市の伝統工芸技術の集大成ともいえ、全国でも主流の産地です。現在では七段飾りなどの大きなセットは少なくなり、親王だけのモダンな商品が多くなっています。平成6年に国の伝統的工芸品に指定されています。



## 静岡挽物

挽物とは「ろくろ」を使って木を回転させて刃物で削って作る製品です。1864年に箱根から技術が伝わったと言われていたが、第二次大戦後に始まった輸出が産地となった大きなきっかけです。現在は台所用品や文具などの完成品から家具、雛具、建築などの部品まで多様な製品を製造しています。



経済産業大臣指定 伝統的工芸品

## 駿河竹千筋細工

「駿河竹細工」と呼ばれる竹細工が古くから作られていましたが、天保11年(1840年)に岡崎の藩士である普沼一我という人が技法を伝えたのが始まりといわれています。「ひご」を使った細工がその特徴です。昭和51年、県内で初めて国の伝統的工芸品に指定されました。現在は花器や行燈を中心にお盆、菓子器、虫かご、バッグなど様々な製品が生産されています。

## 静岡県の郷土工芸品

駿河指物・駿河漆器・駿河蒔絵・駿河和染  
駿河塗下駄・駿河張下駄・静岡挽物・賤機焼  
井川メンパ・駿河竹千筋細工



## 国(経済産業省)指定「伝統的工芸品」

駿河竹千筋細工・駿河雛具・駿河雛人形



## 国(経済産業省)指定「伝統的工芸品」

駿河竹千筋細工・駿河雛具・駿河雛人形



## 駿河蒔絵

蒔絵とは、漆を塗った製品に金や銀などの粉を蒔(ま)いて絵や模様を描くものです。文政11年(1828年)に信州の天領という人が伝えたのが始まりと言われています。文箱や硯箱などをはじめ雛具などの蒔絵が主流でしたが、現在はアクセサリや下駄、盆、花器など多くの商品に描かれています。



## 井川メンパ

メンパとはヒノキの薄い板を丸めたものに漆を塗った弁当箱です。静岡市井川で農家の冬場の仕事に作られていたのが始まりです。素朴でご飯が美味しく保存でき、抗菌作用もある漆のメンパは現在では人気商品です。



## 駿河漆器

江戸時代の浅間神社造営等がきっかけとなり、漆を塗った製品である漆器は大量に生産されるようになりました。古くは鏡台、重箱(じゅうばこ)、竹製品など多くの商品に漆を塗られていました。輸出漆器といえば静岡と言われた時代もありました。蜻蛉塗(せいらいぬり)や金剛石目塗(こんごういしめぬり)などの技法が代表的です。現在ではアクセサリや箸、お盆を始めガラス製品などが作られています。



## 賤機焼

徳川家康公から賤機焼の名を与えられたのが起源と言われています。鬼福という鬼と福が両面になった器が江戸時代から続いています。湯呑やお皿、花器、珈琲カップなど多くのものがあります。

## 市内には伝統工芸以外にも多くの地場産業があります



### 木製家具

鏡台や針箱が起源ですが、高度成長期にはドレッサーやサイドボードが主力となり、現在はリビング・ダイニング用家具から脚物や指物家具までの総合産地となっています。



### サンダル・シューズ

昭和30年代に塗下駄から一斉にサンダルに転換した事で産地となりました。その後シューズも生産が始まり、現在は履物の総合産地となっています。



### プラスチックモデル

木製模型の製造から昭和30年代に一斉にプラスチックモデルに転換しました。現在はスケールモデルからミニ四駆、ラジコンからキャラクターモデルまでの全国一の産地となっています。



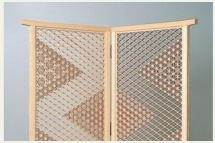
### 仏壇

仏壇は戦後に始まった産業です。唐木(からき)仏壇としては徳島と並ぶ全国的産地で全国に出荷されています。最近では家具調のミニ仏壇が主流となりつつあります。



### 木製雑貨・文具

明治期の輸出漆器が産地化のきっかけです。宝石箱、印箱、オルゴールやゴミ箱など多様な小木製品を生産していますが、なかでも木製教箱はほとんどが静岡産といえます。



### 建具

江戸時代からの歴史を持つ産業のひとつです。現代では木製建具と金属建具に大別されますが、ふすま、格子戸、欄間(らんま)などの木製建具の美しさは変わっていません。



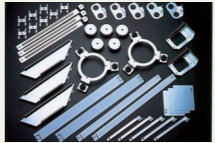
### 製材

駿府城築城や浅間神社造営等でヒノキが使用されるなどして、木材の産地として発展してきました。また戦後の復興需要として製材業も飛躍的に発展し現在も各地に出荷しています。



### 木工機械

家具、小木製品などの木工産業が盛んになるにつれ、その加工機械が必要とされ、木工機械産業も発展しました。刃物からNC装置までいろいろな木工機械を生産しています。



### 金属製品

江戸期の浅間神社造営の「飾り金具職」が源です。現在は建築、家具用から自動車部品、電気部品、プレス金型など様々な製品を生産しており、モノ作りの多くの産業に欠かせません。



### ツキ板

木を非常に薄く削りシート状にした材料です。家具や建築材料の合板などの表面に貼ることで高級感を出します。最近では高級車やクルーザー、航空機などにも使用されています。



### 缶詰

昭和初期にマグロ缶詰の生産が始まり、ミカン缶詰も生産されたことで産地となりました。マグロ・カツオ類缶詰の生産は全国一です。他にもペットボトルやレトルパウチなど広く作られています。



### 造船

清水港の発展とともに造船業も発展しました。遠洋マグロ向けの漁船を中心に生産されました。時代の進展とともに小型タンカーやフェリーなども製造されています。



### 機械金属

清水港に関係する造船や製材の関連部品や工作機械などが多く生産されてきましたが、缶詰用容器製造機、冷凍機、輸送機械をはじめ産業用ロボットや宇宙開発関連なども作られるようになっています。



### 染物

江尻宿の記録にも紺屋町の名は残っており古くから染物が生産され、巴川の豊富な水流が活用されていたようです。清水区では大漁旗や印半纏(しるしばんてん)などの型染にも対応してきました。

**葵区**

**駿河区**

**清水区**

葵区、駿河区では江戸期の公共建築が地場産業の源となり、木製品を中心に様々な地場産業が発展し、現在でも伝統工芸を含めて多くの業種が生きついています。それに対し清水区では、江尻城や江尻宿の整備が始まるもので、その後の清水港の発展とともに、造船、缶詰など幾つかの地場産業へと発展してきています。